



【発行】

偕行会リハビリテーション病院

地域医療連携室

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3892 FAX 0567-52-3907

「ほめて育てる」難しさ



医療の世界は「日進月歩」とよく言われます。常にアンテナを張って、新しい知識を吸収する姿勢がないとあっという間に化石になってしまいます。その医療の現場において、「人材育成についても新しい方法・見方が常に必要だな・・・」と感じています。自分たち世代(ん十年前のうら若き新人時代!)は「先輩の背中を見て育て」的職人の世界にありがちな雰囲気の中で、必死で追いつけ追い越せの勢いで日々の臨床を行っていました。今のようなインターネットの情報もなく、先輩の持っている文献や、時には医師に尋ねたりとまさに人介戦術の学習でした。不得意分野があれば、まずその部分の底上げを第一に取り組み勉強するように言われたものです。今はそれが違っているようで、「得意を伸ばす」のが第一番。ドラッガー氏も「不得意な仕事をさせることは、本人にも組織にも利益になることは少ない」と言っています。得意な仕事をさせて成功させ、能力を伸ばす、ということのようです。また、「出来ないところを注意・叱るのではなく、出来たところを褒める」というのです。これはリハビリにもいえることで、アメリカの大学での研究では、「リハビリ時に適切に褒めて訓練をした患者の機能は褒めなかった患者と比較して有意に改善していた」とのことです。

だったら！スタッフ教育にあたって褒めてみようと思ってみたものの、褒め慣れてない(?)化石人の私には、なかなかいいところ探しから苦難しました。「不得意なところ、直してもらいたいところはよく目につくのですが、『いいところって・・・』』と考えるてしまうこともしばしば。スタッフをいい方向に伸ばしたいと思ったら「まずは自分が古い皮を破って変わらなければならない」と思いました。少しずつ「ほめる」ことにも慣れてきた今日この頃・・・さあ、みんなをほめて褒めてほめまくって、最高のスタッフに育てあげるぞー！

教育企画室室長
赤坂 佳美

